

## 2年次選択科目 小児科臨床研修プログラム

このプログラムは、小児科選択必修プログラムを学んだうえに、さらに小児疾患を幅広く、深く学ぼうとする研修医を対象として作成されたものである。指導医のもとで、研修医が主体的に診療に参加できるように配慮している。研修医の診療への積極的な姿勢が強く求められる。

### 1. 研修施設

獨協医科大学病院（とちぎ子ども医療センター、総合周産期母子医療センター、その他）

### 2. 研修期間

1か月～12か月

### 3. 指導体制

指導責任者： 有 阪 治 教 授

主任指導医： 今 高 城 治

### 4. 研修内容

#### 一般目標（G I O）

小児および小児科診療の特性を学び、経験し、初歩的な診察処置等を習得する。

#### 到達目標（S B O）

##### 小児科診療の特性

- 1) 年齢による疾患の特性を学ぶ。
- 2) 両親または保護者の観察を十分に引き出すための問診方法を学ぶ。
- 3) 両親または保護者とのコミュニケーションの重要性を学ぶ。
- 4) 診察時は理解の乏しい子供に協力を得るため、子供をあやすなどの行為を習得する。
- 5) 小児の薬用量、補液量、検査の基準値に関する知識を習得する。
- 6) 乳幼児の検査に不可欠な鎮静方法、採血、血管確保などを経験する。
- 7) 緊急診療、時間外診療を経験する。
- 8) 小児予防医学：予防接種外来、マスキング外来（新生児先天代謝スクリーニング、腎臓三次検診、心臓三次検診）を経験する。

##### 小児期の疾患の特性

- 1) 成長、発達過程における疾患内容の違いを学ぶ。
- 2) 先天性疾患の最初の診療は小児期であることを学ぶ。
- 3) 各種感染症や急性疾患の頻度が成人に比べて高いことを学ぶ。
- 4) 急速な病状の変化に対する迅速な対応を経験する。

5) 新生児医療は周産期医療としての特殊・専門性が高い領域であることを学ぶ。

5. 具体的な研修目標

|       |  |
|-------|--|
| 面接指導法 | 一般目標 (GIO)   |
|       | 両親・保護者から診断に必要な情報を的確に聞き取り指導する方法を習得する  |
|       | 到達目標 (SBO)   |
|       | 小児に不安を与えないように接することができる<br>両親・保護者と良好なコミュニケーションを保ち適切な情報を得ることができる<br>両親・保護者に対して、指導医とともに病状を適切に説明し、指導することができる |

|  |                                |
|--|--------------------------------|
| 基本的診察法   | 一般目標 (GIO)                     |
|  | 小児疾患の診断と治療に必要な知識を習得する          |
|  | 到達目標 (SBO)                     |
|  | 小児の正常な身体発育、精神発達、生活状況を理解し、評価できる |
|  | 小児の年齢に応じた適切な方法で身体所見をとることができる   |
|  | 小児の身体計測、検温、血圧測定ができる            |
|  | 視診により全身状態栄養状態を評価し、所見の有無を判断できる  |
|  | 乳幼児の口腔内・咽頭の診察ができる              |
|  | 小児の鼓膜所見を診ることができる               |
|  | 発疹の所見を述べることができ、鑑別診断ができる        |
| 下痢の回数、性状（硬さ、量、粘液・血液・膿の有無）を述べる<br>適切な腹部所見を述べる<br>咳嗽の性状（乾性、湿性、犬吠様等）と呼吸困難の有無を説明できる<br>痙攣の型、持続時間、意識障害の程度を評価し述べる<br>髄膜刺激症状の有無を述べる |                                |

|       |  |
|-------|--|
| 基本的手技 | 一般目標 (GIO)   |
|       | 小児、特に乳幼児の検査および治療の基本的な知識と手技を習得する                                  |
|       | 到達目標 (SBO)   |
|       | 指導医・上級医師のもとで採血ができる<br>指導医・上級医師のもとで皮下注射ができる<br>指導医・上級医師のもとで導尿ができる |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>指導医・上級医師のもとで輸液、輸血ができる</p> <p>指導医・上級医師のもとで腰椎穿刺ができる</p> <p>指導医・上級医師のもとで浣腸ができる</p> <p>指導医・上級医師のもとで高圧浣腸、注腸ができる</p> <p>指導医・上級医師のもとで胃洗浄ができる</p> <p>指導医・上級医師のもとで新生児の臍肉芽の処置ができる</p> <p>指導医・上級医師のもとで新生児の血管確保ができる</p> <p>指導医・上級医師のもとで新生児の光線療法の必要性の判断および指示ができる</p> |
|--|--|

|                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 医療の社会的側面                     | 一般目標 (GIO)               |
|                              | 小児医療の社会的、予防医学的側面に対応し参加する |
|                              | 到達目標 (SBO)               |
|                              | 予防接種を行う                  |
|                              | 新生児先天代謝スクリーニングの結果を評価する   |
|                              | 学校腎臓三次検診の結果を評価する         |
| 学校心臓三次検診の結果を評価する             |                          |
| 地域児童相談所やスクールカウンセラーとの関係を構築できる |                          |

|      |   |
|------|---|
| 文書記録 | 一般目標 (GIO)  |
|      | 適切に文書を記録し、管理することができる                                  |
|      | 到達目標 (SBO)  |
|      | 指導者のもとで、診療記録、診療要約などの医療記録、処方箋、指示箋、診断書、その他の文書の作成、保存ができる |

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 薬物療法                                  | 一般目標 (GIO)                                      |
|                                       | 小児に用いる主要な薬剤(血液製剤を含む)に関する知識と用量・用法の基本を習得する        |
|                                       | 到達目標 (SBO)                                      |
|                                       | 指導者のもとで乳幼児に対する薬剤の服用、使用法について看護師に指示し、両親・保護者を指導できる |
| 指導者のもとで年齢、疾患等に応じて基本的輸液の種類、量を決めることができる |   |

|       |   |
|-------|---|
|       | 一般目標 (GIO)  |
|       | 小児に多い緊急疾患の基本的知識と処置、検査の手技を修得する   |
|       | 到達目標 (SBO)  |
| 小児の救急 | 喘息発作（中発作以下）の応急処置ができる<br>脱水症の応急処置ができる<br>痙攣の応急処置ができる<br>腸重積症を診断し、発症時刻を推定し、指導者のもとで整復治療ができる<br>人工呼吸、胸部圧迫式心臓マッサージなどの蘇生術を実施することができる<br>指導者のもとでハイリスク分娩に立会い、新生児仮死の蘇生ができる |

#### 6. 経験すべき症状

|           |                  |
|-----------|------------------|
| 発熱        | 食欲不振、哺乳不良        |
| 咳、喘鳴、呼吸困難 | 胸痛               |
| 嘔吐        | 痙攣               |
| 下痢        | 発達の遅れ            |
| 腹痛        | 意識障害             |
| 便秘        | 心雑音、不整脈          |
| 腹部膨満      | 多尿、乏尿            |
| むくみ       | 発育の異常（体重・身長増加不良） |
| 黄疸        | チアノーゼ            |
| 頭痛        | 皮膚の異常（湿疹、紫斑など）   |

#### 7. 経験すべき疾患

|                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 気管支喘息、急性細気管支炎      | 先天性心疾患              |
| 感染性胃腸炎、乳児下痢症       | 血液腫瘍性疾患（貧血、白血病、ITP） |
| 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎など | ダウン症候群              |
| 髄膜炎                | 早産児（未熟児）            |
| 尿路感染症              | 脳性麻痺                |
| 熱性痙攣               | 腸重積症                |
| てんかん               | アトピー性皮膚炎            |
| 低身長                | 肥満                  |
| ネフローゼ症候群           | 糖尿病（1型および2型）        |
| 先天性甲状腺機能低下症（クレチン症） | 被虐待症候群              |
| 川崎病                | 心身症                 |